

第3学年 社会科
「消費生活と経済」

1 学校名・職氏名

萩市立田万川中学校 教諭 室谷 雄二

2 生徒

3学年 15人

3 学習指導案

(1) 題材名

消費生活と経済

(2) 題材の目標

経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。

(3) 題材設定の意図

① 生徒観

本学級の生徒は、学年当初、社会科に対する興味・関心が高い生徒と低い生徒がほぼ半数で二極化していた。そこで、まず新聞記事を利用し、時事問題を取り上げ、社会に対する興味・関心を高めるように取り組んできた。時事問題を基に話し合い活動などを行うことで、社会的な事象に関する興味・関心は確実に高まってきており、積極的にニュースや新聞などを読む生徒が増えてきた。この中で、本時の内容に関わりのあるエネルギー問題についてすでに取り上げてきている。また、学習内容の定着についても二極化しているが、自らの考えを述べることは、ほぼすべての生徒ができる。班の活動は、学校として様々な場面で取り組んできており、スムーズに行うことができる。

② 教材観

中学校学習指導要領解説社会編では「ア 市場の働きと経済」において「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」としている。このような観点から、今回の授業では「身近な消費生活」の題材として、「電力小売全面自由化」を取り上げる。価格や安全性、供給安定性、立地、自然環境の問題などの面から、よりよい商品（電気）を選択させる活動を通して、経済分野の導入となるものである。さらに、販売者と消費者の立場から考察させる活動を通して、今後の授業の内容への興味・関心を高めさせる教材として適切だと考える。ただし、電力自由化自体を指導するわけではないため、現実の状況を生徒に判断しやすく単純化（教材化）する。

③ 指導観

本単元は、現実の経済に対する関心を高め、身近で具体的な事例を取り上げて学習を展開する。また、経済的な事象をとらえる見方や考え方の基礎、経済に関する

課題を解決しようとする態度を養い、よりよい消費者を育てていきたい。

そこで、既存の学習内容であるエネルギー問題を、選択の材料とする。また、販売者の視点を考察させることで「企業がどのように販売戦略を立てるのか」という点にも気づかせ、今後の経済学習につなげたい。

(4) 題材の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の評価規準	・消費生活のシミュレーションに意欲的に取り組み、経済への関心を深めている。	・消費生活や流通に関する様々な事例を基に、経済活動における選択や消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考え、その過程や結果を適切に表現している。	・消費生活に関する課題や消費問題について事例や統計資料を収集・選択し読み取ると共に、その解決策について自分なりの考え方をまとめている。	・身近な消費生活を基に、自分の日常生活と経済との関係に気づくと共に、経済活動の意義について理解している。

(5) 学習計画（指導と評価の計画（全5時間））

時	小題材名	時数	主眼
1	身近な経済活動についてシミュレーションしてみよう。	1時間 (本時)	・シミュレーションを通して学習への意欲を高め、経済に興味・関心を持つ。 ・販売者の視点と消費者の視点を考えることで、経済活動における選択について考察する。
2	私たちの消費生活	1時間	・商品の生産と消費を通して暮らしを豊かにする仕組みを理解する。 ・将来の家計の支出を予測し検討することで収支のバランスについて考える。
3	契約と消費生活	1時間	・消費生活が契約によって成り立っていることを、多面的・多角的に考察する。 ・消費者問題の概要について理解する。
4	消費者の権利を守るために	1時間	・消費者の権利とその保護の取組について理解する。 ・消費者の権利や消費者行政の役割について理解する。
5	消費生活を支える流通	1時間	・身近な商品の流通経路について理解する。 ・流通の役割や流通の合理化の取組について生産者と消費者の立場から考察する。

(6) 本時案（本時は全5時間中の1時間目）




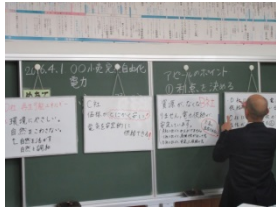

① 目標

よりよい商品を選択し、購入するという消費者の視点と、いかに自社製品を販売するかという販売者の視点を通して、商品購入の判断をすることができる。

② 準備

ワークシート、資料、ホワイトボードセット

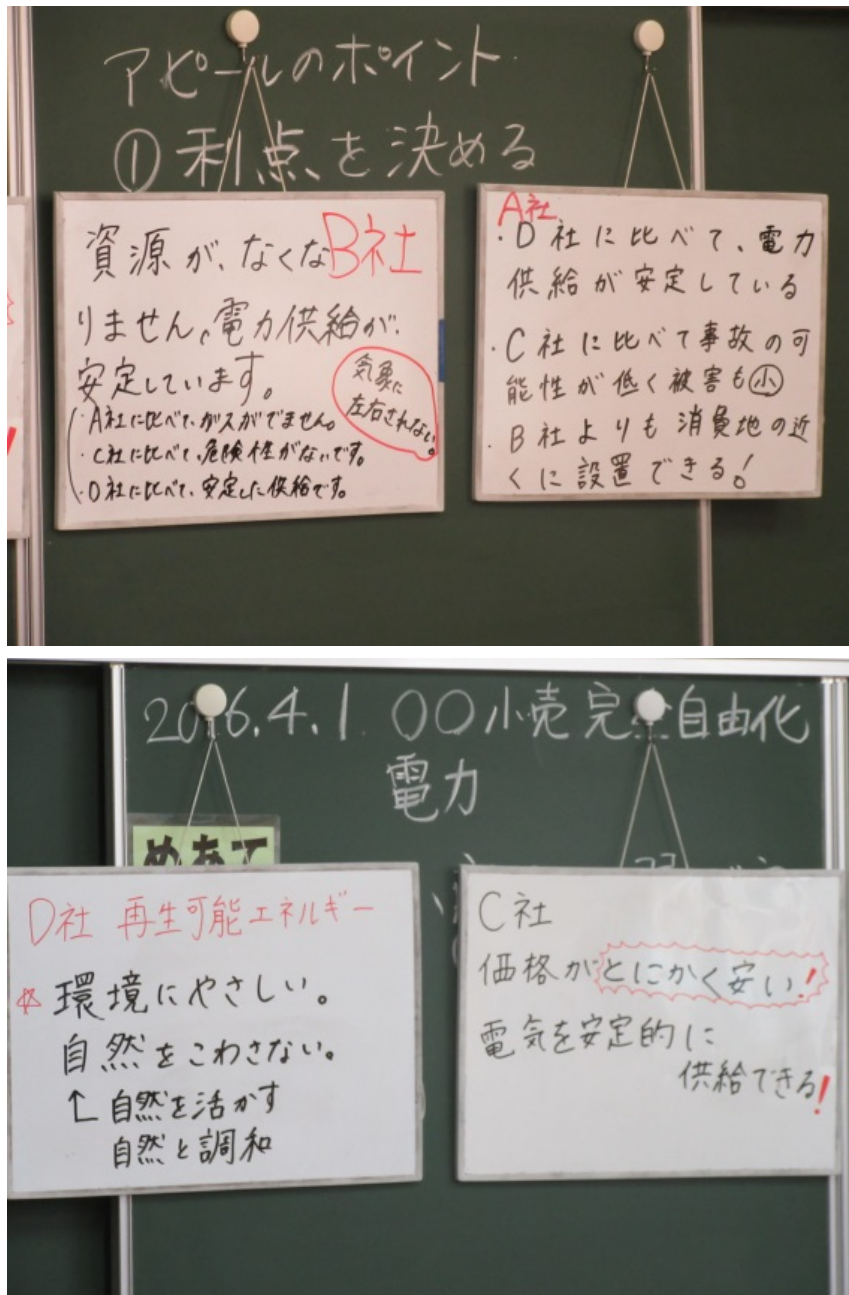
③ 学習過程

	学習内容・活動	教師の支援
導入 10	<p>1 本時の内容を予測する。 「2016・4・1 ○○小売全面自由化」</p> <p>2 これまでの電力販売と電力小売全面自由化の違いについて知る。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>・○○を予測させ、本授業への関心を高め、発言しやすい雰囲気をつくる。</p> <p>・既存の学習を振り返り、様々な販売形態の中から、発電と小売が連携した形を取り上げることを確認する。</p>  <p>・めあて「よりよい商品(電気)を選ぼう」をワークシートに記入させる。</p>
展開 25	<p>4 火力・水力・原子力・再生可能エネルギーの利点と課題を確認する。</p> <p>5 販売者の視点でアピールポイントを話し合う。(班)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">販売者の立場でアピールポイントを考えよう。</div> <p>6 販売者のアピールポイントを発表する。(班)</p>	<p>・既存の学習（教科書P183）から、利点と課題を振り返らせる。</p> <p>・自社の利点を他社の課題と比較し、強調するなど考察上のポイントを補足する。</p>   <p>・各班の考えを聞き、自分の考えを決定することを意識させる。</p>  
終末 15	<p>7 商品（電気）選択をする。(個人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">あなたは、どの販売者の電気を選びますか。</div> <p>8 自分の考えを発表する。(個人)</p>	<p>・自分の考えとは違う考えがあることに気付かせる。</p>

<p>9 授業を振り返る。 (ふりかえりシートの記入)</p>	 <p>・本授業の振り返りながら、電気がミックスされて届くことなどを補足する。(資料)</p>
-------------------------------------	---

《資料》

【各班のアピールポイント】

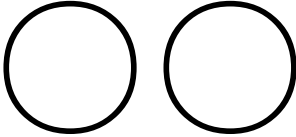


【ワークシート】

社会科 3年 ワークシート

3年1組 () 番氏名 ()

めあて 「 」

2016・4・1  小売全面自由化

これまで

(1) → → → → → (2)

2016・4・1 以後

(3)

(4) → → (5) ← ← (6)

(7) (8)

・あなたはどの販売者の商品(電気)を選びますか。

会社名 () 社

あなたが よりよい と考える点は何ですか？

4 指導上の工夫

学習過程では、個人の考察→班の考察→発表という過程を通して、他者の意見を聞き、自らの考えを深めさせたい。

5 成果と課題

(1) 成果

生徒は、授業を通して電力小売全面自由化の流れを理解し、経済分野への興味・関心を高めることができた。学習過程を通して自らの考えを発表し、また、他の生徒の発表を聞くことで、より深く考察することができた。

【生徒の感想】

○これから僕たちも大人になって、こういうことを考えていかないといけないので、いろんな観点から物事をみていきたい。

○アピールポイントを考え、販売者としてアピールし合うのは、なかなか面白かったです。

(2) 課題

電気を教材として扱ったが、身近なようで、実は生徒の実生活から離れた教材であった。また、電力小売全面自由化という内容を生徒に理解できるように説明することに多くの時間を必要とした。そのため最終的な発表の時間を十分に確保することができなかった。ただ、今後の授業への興味・関心を高めることと、将来、電気を選択し購入するための基礎的な知識や考え方を身に付けることはできたと考える。

6 授業検討会での主な意見

(1) 授業実施前に学習指導案の検討を行った際の主な意見

○電力供給の問題に、電力小売の全面自由化を結び付けて、家庭で電気を選ぶことがどのように地域などに影響を及ぼすのか、といったことも併せて考えると消費者教育につながる。

○班ごとに販売者の立場でアピールする際、アピールポイントについて整理しておかないと議論がかみ合わなくなる恐れがある。価格、安全性、供給安定性、立地、環境ぐらいがよいのでは。

○教科書に載っているままでなく、中学生が普段使っている言葉を使用してみてもどうか。「発電」を「生産」、「送電」を「流通」、「小売」を「販売」とするとイメージがわかりやすい。

○授業の振り返りの時に生徒から「情報が大切」とか「セールスマンの話を鵜呑みにしない」といった感想がでるとよい。

(2) 授業実施後の主な意見

○「よりよい消費者をつくる」とある。これを取り上げると、家庭科と社会科との差がどのようにでるのか興味深かった。買い手に着目されたので、社会科の授業となった。グループワークで価格（効率）や環境についてしっかり深めたものが見られた。

○社会科では、価格とコスト。どれを選ぶかという場合、価格が重要になる。社会科では、価格を媒介して消費者と生産者を考える。価格があつて、その次に環境などの視点で選ぶのではないか。

○本日の授業では電力自由化を取り上げられたが、子供の現状に合わせて商品は選

べばよい。電力などのサービスは買ったという意識が低くなるかもしれない。

○家庭科と社会科の違いを考えると、家庭科は家族を基本に考える。社会科は地域社会との関連を考えている。今回のテーマでは、電力自由化に伴い販売者側の視点に立ったのが社会科としての意義があった。家庭科では、消費者の権利と責任そして意思決定を勉強する。社会科でも、社会的なことを考えた意思決定、フェアトレードとかを考えさせることができる。

7 消費者教育アドバイザーの総評

(1) 消費者教育アドバイザー

(公財) 消費者教育支援センター 総括主任研究員 中川 壮一

(2) 総評

① 生徒に身近な消費生活との関わりからのアプローチ

中学校社会科の経済学習では、消費生活や消費者問題について学ぶ内容があり、学習指導要領では、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」とある。消費者としての賢い選択を考えるというよりも、消費者の「需要」と生産・販売者の「供給」を通じた市場の働きの理解や、市場の働きにゆだねることが難しい消費者問題(消費者保護)について国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせることとなっている。

今回、消費生活に関わる題材として「電力小売全面自由化」を取り上げたことはとても挑戦的で、これまで地域独占的に電力会社から供給されてきた電力を消費者が選べる時代になったという話題から、消費者教育の観点を取り入れた授業構想を考えることになった。しかし、中学生も日常使用している電気ではあるが、家庭の電気代を支払ったり、契約をする主体ではないため、生徒が電力を買うという意識を持つのは難しいのではないかという問題もあった。実際、学校の周辺に太陽光パネルの設置があつたり、資源回収センターの社会科見学はしているが、自由化の影響もまだ都市部や一部地域に限られ、すぐに家庭や地域に影響があるという状況ではない。しかし、時事問題について新聞記事を取り上げた学習を行っていたことや、エネルギー問題についてすでに学習をしていたことから、消費者の選択や消費生活と関わりのある問題として取り上げられるのではないかということで、モデル授業の検討を行った。

② アクティブラーニングとして、販売シミュレーションの手法を取り入れた実践

授業では「電力自由化」を導入の話題として取り上げたが、自由化について教えるというわけではないため、生徒に現実の状況を考えやすくするための「単純化」(教材化)が試みられている。電気という商品を選択する消費者の視点と、電気を販売する企業・販売者の視点から考え、体験的な活動を取り入れた形で展開する実践となっている。

中学生が考えやすいように、教科書や資料集の情報をもとに、価格、安全、供給安定性、立地、環境への影響といった観点から各発電方法の特徴についてまとめ、販売会社の売り(セールスポイント)をアピールする販売シミュレーションを取り入れているところに特徴がある。生徒は主体的に情報を読み取り、さらに販売会社の立場からの発表や意見を聞いて、個人・班としてどの電力会社を選ぶかを判断し、その理由についても他の発電方法と比較しながら理由を発表することができていた。

消費者や販売者などの立場・役割でその行動や選択のあり方について考えることは、ロールプレイング(役割演技)の手法でもある。消費者といっても経済的な利益のみで行動するとは限らないので、ロールプレイングによって、消費者として重視することや、企業であ

れば販売戦略や利益について考えたり、さらには地域住民や市民などの立場から考える際に活用できる。これらの手法を授業で取り入れやすくするためには、消費者問題や経済的な課題を扱ったロールプレイング教材やシミュレーション教材の充実が必要であろう。

③ 家庭科との違いと今後の課題

モデル授業後の検討会では、家庭科での消費者教育の実践との違い、社会科で取り組む際の特徴についての議論もあった。社会科らしいアプローチとしては、消費者の視点だけでなく、販売者・売り手にも着目したところがよい、コンビニエンスストアの経営という立場から店舗の立地や販売の工夫、消費者のニーズなどを考える学習とも共通するといった意見もあった。さらに、「効率」と「公正」という観点から考えることも必要ではないかという意見もあった。

家庭科では、家族や家庭生活の観点から商品の購入や意思決定について考える実践が行われており、「持続可能な社会」や「消費者市民」という考え方も取り入れた実践も行われるようになってきている。家庭科での取組との違いも意識しながら、今回のモデル授業のように、社会科においても生徒に身近な消費生活に関わる話題・問題を取り上げた実践研究が充実していくことを期待したい。